

令和6年度岐阜県博物館協議会議事要旨

1 日時 令和6年12月18日（水） 13:30～15:10

2 場所 岐阜県博物館 講堂

3 出席者

小野寺 茂樹（日本放送協会岐阜放送局長）

春日井 恵子（岐阜市立鏡島小学校長）

清水 啓子（岐阜県博物館サポーター）

高野 裕行（公募委員）

辻 公子（岐阜女子大学 講師）

長屋 メイ子（中部学院大学・中部学院大学短期大学付属桐が丘幼稚園長）

古川 秀昭（前岐阜県美術館長）

4 開会

（1）12名中7名の出席により、本協議会は成立。

（2）館長挨拶

（3）会長選出

委員の互選・事務局より提案により古川前会長が再任。

5 議事要旨

（1）会長挨拶

かつては博物館法そのものが問題になっていた。新博物館法における登録がどういうものか興味がある。

（2）報告事項 県博物館の現状と取組みについて

報告事項：「岐阜県博物館の現状と取組み」（資料1）、「博物館機能の全県展開」（資料1－付図）、「岐阜県博物館の現状と展示データ」（参考）を説明

昨年度協議会における委員からの意見への対応：

「情報発信の方法やアプローチについて工夫する余地があるのではないか、それによって博物館の魅力を向上させてはどうか」については、民間商業施設連携に加えて岐阜大学と連携することによってライチョウをテーマとして6か所を巡回する展示を展開した。

「様々なアンケートを取ることができないか。」については、既存の館内アンケートに加えてサテライト展示や出張けんぱく教室で二次元コードを用いて簡単なアンケートを取ることをした。また博物館を利用する県内の学校団体の先生にもアンケートを昨年度途中から行っている。

「サポーターのさらなる利用ができないか」については、館外活動含め広く支援いただいております、今後も継続予定。

「生活に基づく様々な活動をできないか」については、体験メニューを通じて行った。

【質疑】

<会長>

協議会の意見には真摯に対応してもらえるので、積極的に提案を。

NHKや中日、岐阜新聞に取り上げられた例はあるか。

<事務局>

NHKには昨日、高山市江名子小学校で行った出前事業をニュースで取り上げてもらえた。新聞ではポケ

モン展の来場者 5 万人セレモニーや旧徳山村民家の再オープンの会場の様子なども取り上げてもらえた。

<会長>

ポケモン展で 5 万人を超えたのはすごい。これはどのように総括をしているのか。

<事務局>

巡回展であるが、開催地ごとに地元の化石を入れるという特色もあり、もちろんポケモンという大人気のコンテンツを切り口に化石や古生物を学べる教育面も相まって多くの方にご来館いただいた。

<会長>

招待券を近所の家族に配ったところ、周辺の人が訪ねてきた。おそらく見に行った子がおもしろかったと言ったのだろう。委員に招待券を渡すのもいいのでは。

(3) 協議事項 博物館の新登録制度と岐阜県博物館

協議事項：「博物館の新登録制度と岐阜県博物館」（資料 2）、「博物館法の一部を改正する法律の概要（文化庁）」（参考）を説明。

【質疑】

<会長>

文化庁としては登録施設を増やしたい意向なのか。

<事務局>

必要な基準を設けたうえで地域社会に貢献する登録博物館を増やしたいというのが文化庁の意向と考えている。

<文化伝承課長>

民間主体で公立博物館・美術館と同程度に運営している博物館・美術館をしっかり位置付けていくというのも大きな流れとしてある。法改正前には県内で 11 か所が登録されていたが、改正後、川島町にある民間の内藤記念くすり博物館が岐阜県で初めて民間立登録博物館になった。

<会長>

関市の鍋屋バイテックの岐阜現代美術館「桃紅館」などは登録されているのか。

<文化伝承課長>

現段階では入っていないが、制度的には登録できることになった。

<会長>

登録は県が申請するのか。

<事務局>

それぞれの施設が県に申請し、県で審査される。

<辻委員>

収蔵庫はどういった状況なのか。今後展示キャプションに二次元コードを付けて情報に飛ぶようにする方法などを取ることはあるか。

<事務局>

収蔵庫は九割がた埋まっており結構厳しい状況である。資料を整理しつつスペースの確保をしている。

現在、コード（数字）を入力し音声で展示物を案内するポケット学芸員を導入しており、今後も充実させていくよう考えている。

<辻委員>

ポケット学芸員は日本語だけか。

<事務局>

ポケット学芸員はデータベースのサービスの一環で、ダウンロードしたアプリで一部の公開用のデータを利用してもらうもの。音声だけでなくテキストによるサービスもあり、そのテキストでは日本語だけでなく外国語も入力することができる。

<会長>

解説員の研修について、障害者や外国人など多様な来館者を迎えるうえで必要な知識・ノウハウを学ぶ研修があがっているがこれまでに実施してことはあるか。

<事務局>

研修と意識して実施したことはない。今後、特別支援学校の先生に来ていただいてその学校の生徒を迎えるうえでどのようなことに注意したらよいのかなど基本的なことから始め、その学校の生徒にとって魅力的なプログラムは何かという内容面についても聞くなどしてはどうかというアイデアが出ている状況。

<会長>

一つお勧めしたいことがある。かつて岐阜県美術館では視覚障害を持つ方々が美術品を触りながら鑑賞するという試みをした。ロダンのエヴァという彫刻に触れた方の一人が男性像だと主張された。アダムを所有する館の学芸員と話したところ、ロダンは男性をモデルにして女性像を制作していたとのこと。美術館より博物館がはるかに「触って」という鑑賞の方法ができると思う。ぜひこうした取り組みをしてはどうか。

またそれをきっかけに視覚障害者のお見合いの場としても利用された。岐阜県博物館においても例えば交流の場として活用してはどうか。

<事務局>

現在、触ってもらうコーナーもあり、博物館は障害者の方に利用してもらいやすい展示はより進めやすいと思っている。

<小野寺委員>

開館以来48年たちそろそろ建物をどうするかという話が出てもおかしくないと思うが検討状況のようなものがあれば教えてほしい。

研究を進めてそれを発信したいという思いを持った学芸員がいるのか。

<事務局>

この建物は古くはなっているが十分使えると考えている。一般的には県の施設は65年使うことになっており、悪くなる前に修繕、交換、更新などして少しでも長く大切に使っていきたい。さらにその先は今のところ議論が及んでいない。

学芸員に自分の専門知識を高めたい、学会に参加して最新情報を得たいという強い思いはある。それを発信する場は特別展・企画展といった展示であり、学芸員が企画に関わって専門的な内容を一般の人にわかりやすく伝える学芸講座を企画したり学芸員が調査した結果を発表する印刷物も刊行している。中でも話題性のあるものは記者発表をしている。

<春日井委員>

ポケモン展のオープニングに参加しそれを動画にして学校で流したらすごい反応があった。子どもたちと県博物館についてしゃべったのは初めて。親からも反響があった。ポケモン展ができたのは県の博物館ならではの。

岐阜県博物館の客は旅行客ではなく岐阜県の人、最も集客力が高いのは子どもと親、祖父母の団体ではないかと思っている。今までの展示はどちらかというと子どもがおもしろいと思うものが少なく、その親世代である若い層が好むものでなかった。今回のポケモン展のような展示は費用もかかるが数年に一度やってもらえるとよい。

特別展・企画展をできるだけ効率的に進めるため、子どもも楽しめるような巡回展をもってきてはどうか。もう少しお金をかけて楽しい展示を引っ張ってきてもらえると嬉しい。学芸員がすべてを企画する特別展等をもっと練ってできるように回数を減らしてもらえるとよい。

<事務局>

当館が誰に向けて何を、は登録に向けて議論すべき根っこの部分であるが、すぐに結論が出る話ではなく、職員が法改正について勉強した先に結論が出ると思う。そのために人材育成を優先している状況。

ただ研究して展示していれば来館者が増えるという時代ではなくなっており、今回のようにポケモンとい

う人気コンテンツを切り口として多くの方に来ていただいたが、今後は多くの方に来ていただくためにはどうしたらよいのかは常に模索し続けねばならない。その手法として、巡回展を活用することを検討しなくてはならないが予算との兼ね合いが必要。

<高野委員>

デジタル化について方針はあるのか。

<事務局>

法改正に関わらず取り組んでいる。収蔵品の管理や展示のためにデータベースを始めている。公開が来館の呼び水になることは理解しているが、ホームページなどで皆さんにみていただけるものは限られている。必要なものをすべてカバーするには時間がかかる。

<高野委員>

先日、博物館の収蔵標本をみた。来なければわからない。デジタル情報がある程度整理されていて外からこういうものがあるのかとわかり来館するということができると利便性が高い。目録とできれば画像があるとよいが、いろいろな方策を考えてもらえるとよい。

<会長>

テクニカルなものはガラッと変わる可能性がある。しかし、外から調べることができるものがあるということはよいので優先順位をつけてやる必要がある。

<清水委員>

人材を増やすという方向で予算をつけることは考えているのか。

博物館で学んだことが百年公園でみられる、百年公園も含めて学習の場となるように公園と一体化した活動ができるような場を作ってもらえるように働きかけてできるとよい。

打って出る博物館のために、よりサポーターの活用を。

<会長>

今、サポーターは何人くらいなのか。

<事務局>

およそ百名。

職員の増強について、増やしていきたいと考えているが容易ではない。引き続き取り組む。

公園も新たになることあり、今まで以上に連携を図っていきたい。

サポーターについては、今のいい形で持続していきたい。

<長屋委員>

大勢が飛びつくような企画で博物館に来たことがない人を呼び込むことも大事だが、博物館ならではの大事。マニアックな、突き詰めて好きな人にとっても満足を得られる、そういうわくわくも提供してもらいたい。

6 令和7年度博物館展覧会計画（案）について

「令和7年度展覧会計画（案）」（資料3）を説明。

7 閉会